

# 令和7年度尚志館高等学校自己評価表

尚志館高等学校

教育基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、各自の資質を高め、国や社会に貢献できる人間を育成する
教育目標	志を常に高く持ち、多様化する時代に即応した教育、変化する社会の要請に応える教育、知・徳・体の調和のとれた教育により、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する
努力目標	①学習指導を徹底し、学力の向上を図る ②生活指導を徹底させる ③きめ細かな進路指導の徹底により、学力・適性に応じた進学就職の実現を図る ④部活動の推進・強化

## 1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的効果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める	3.8	設置学科、6学科において、各生徒の状況を把握、目標を設定し、継続的な改善を目指す。クラウドを利用した職員間グループウェアを稼働させると同時に、各校務分掌毎に共有フォルダを置き、教職員間の共通理解、業務効率化、紙資源の節約を目指している。令和4年度導入の校務支援システムは4年目となり、全学年を対象に移働中である。

## 2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学級経営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う	3.8	担任が抱え込まないよう組織で対応している。比較的、転学・退学者の少なさが本校の特徴であるが、昨年度やや多かった転学・退学者数は今年度は減少した。職員間の組織的な連携が重要である。
教科指導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する 効果的な授業を行うために教材研究や研修を深める	3.8	教科により差はあるが、作成したシラバス、年間計画に従って単元前や授業の前にポイントを説明している。各レッスン、各単元の導入ではテーマを理解させた。 生徒が面白いと思い、生徒に興味を持たせる工夫は常に必要である。ICT教育に関しては、小中学校教育現場と比較すると遅れをとっている。一斉講義型授業で理解が十分でない生徒、時間を持て余す生徒を想定し「個別最適化」の具体的な取り組みが必要である。
特別活動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実 学校行事の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる 効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する	3.8	生徒会を中心に学校生活を改善するための積極的な取り組みが伝わりつつある。同時に、職員も生徒の取り組みをサポートする体制に変化しつつある。 学校行事については、適切な実施時期の選定や救急時の対応に懸念が残る。次年度へ活かしていく必要がある。生徒達自身で自らを律し、けじめのある充実した行事にしようとする良い傾向がある。一方、行事の目的や意義が十分に共有されていない部分もある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りの持てる生徒を育成する	基本的な生活の確立を図る 交通ルールの遵守、ネットモラルなど安全教育の徹底	3.8	礼儀作法や身だしなみなどの基本的な指導は全職員で取り組んでいる。生徒が理解し、主体的に行動するよう生徒会を中心とした生徒との連携が必須である。 車の運転をする生徒もいるため、運転することの責任、命に関わることを常に意識づける必要がある。また、ネットモラルに関する問題は表面化しにくいいため、継続的な指導、特に事前の指導が重要である。
進路指導	進学・就職指導の充実	系統的・計画的な進路指導の実践	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う 生徒の能力や適性に応じた進学・就職指導	4.1	進路は3学年からという意識があり、取りかかりが遅れがちである。2学年、1学年から担任を中心に、学科、教科と連携し、早期からの進路指導の関わりが重要である。就職希望者は100%内定。医療福祉科、看護学科の高い国家試験合格率、普通科からの国公立大学への合格。特進科においては、生徒の志望に沿ったレベルの高い大学への合格を実現している。自分の能力に限界を作らせない、自分の能力の上限にラインを引かせない指導を継続する。
保健衛生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導の徹底 体育指導の徹底 防火・防災訓練 環境衛生の整備	心と身体の健康を管理する能力を育てる 運動技能を高め、体力向上を図る 防災についての意識の高揚を図る 学習にふさわしい環境を整える	3.4	心の問題を抱える生徒が増えているため。生徒が相談しやすい環境を作り、積極的にコミュニケーションを図ることで対応している。また、組織的に対応していくことの大切さも職員間で共通理解している。体育指導では部活動に所属していない生徒たちの体力向上が課題である。防火・防災訓練は計画通りに実施。環境衛生の整備については、各クラスと協力し、花壇の整備は各行事に合わせて準備ができた。ごみ分別については改善傾向にある。
広 報	広 報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成 中高連絡会・体験入学の実施 中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施 ホームページ・Eメールの管理 PTA・中学生の訪問受け入れ	4.0	近隣校で既に導入されているWeb出願を採用し2年目になるが、中学校進路担当者からは好評であった。ホームページは、より閲覧しやすいスマホ対応版となった。また、中学校PTA、中学生の来校には柔軟に対応し、更に、地区別説明会、中高連絡会、塾対象説明会、体験入学、進学相談会、出向説明会において本校の理解に繋がるよう努めている。私立高校授業料無償化の恩恵を受け、定員を確保しているが、3年後の生徒、保護者の満足度を更に高めていくことが今後の課題であり、進路指導の実績が益々重要になることを踏まえ、在校生に対する指導に全力を尽くす。
部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的な参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましく人間に育てる	3.6	大会の結果だけでなく、学習面やコミュニケーション能力、礼儀作法、マナー、最後まで諦めない心など、人間形成に繋がる指導を行っている。特に、強化部の部活動生においては他の生徒の模範になることを目標に指導し、学校生活、生活態度、授業態度など、学校全体を良い方向に牽引する役割に期待する。
評 価				3.8	